

● 環境省からのお知らせ ●

オンライン学習コンテンツ なすナビ「ふく知るチャレンジ」更新情報

「なすナビ ふく知るチャレンジ」は、震災からこれまでのふくしまの環境再生の歩みをクイズ形式で答えながら、楽しく学んでいく学習コンテンツです。

クイズは、「放射線」「除染・中間貯蔵」「地域の環境再生」の3つのカテゴリ出題されます。意外と知られていない地域のトピックスや、これまでの環境再生の歩みについて知る、理解することができる構成となっています。

今回、これまでチャレンジいただいた皆さまからの感想やご意見をふまえて見直し、カテゴリ毎に10問のクイズとしました。全問正解を目指してぜひチャレンジしてみませんか。



クイズは、①放射線 ②除染・中間貯蔵 ③地域の環境再生の3ジャンルから出題されます。

すべて回答すると正解不正解をチェックしながら、クイズのワンポイント解説と、もっと理解するための情報で、学びを深めていただくことができます。

オリジナル壁紙をプレゼント!

各ジャンルで全問正解もしくは、最後にアンケートにお答えいただくと、なすナビさんのオリジナル壁紙がダウンロードできます。

■ 「環境再生についてクイズで学ぼう! inふくしまSDGs博」動画公開!



2022年9月に福島民報創刊130年を記念して開催された「ふくしまSDGs博」のステージで、なすナビさんがMCのペンギンナッツさんと掛け合いをしながら、「なすナビふく知るチャレンジ」からクイズの出題と解説をし、会場を盛り上げました。

その様子を動画でご覧いただくことができます。

なすナビ ふく知るチャレンジ

環境省の情報発信拠点

見学会やイベント等の詳細につきましては、各施設にお問い合わせ下さい

● 中間貯蔵工事情報センター



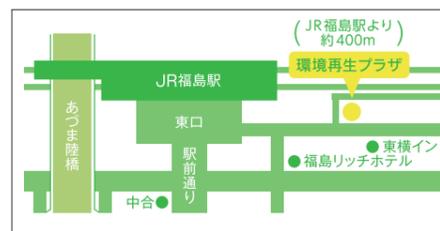
- 所在地 福島県双葉郡大熊町 大字小入野字向畑 256
  - 開館時間 10:00～16:00
  - 休館日 日曜日・月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
  - 電話番号 0240-25-8377
- 中間貯蔵施設工事について紹介しています。毎月、中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。

● 特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



- 所在地 福島県双葉郡富岡町 大字上郡山字太田 526-7
  - 開館時間 9:00～17:00
  - 休館日 月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
  - 電話番号 0240-23-7781
- 特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

● 環境再生プラザ



- 所在地 福島県福島市米町 1-31 1階
  - 開館時間 10:00～17:00
  - 休館日 月曜日、年末年始 (月曜日が祝日の場合は翌平日)
  - 電話番号 024-529-5668
- 福島環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

ふくしま環境再生 Vol.26



「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。

環境省では、COP27ジャパンパビリオンにおいて、「あれから11年。福島、その先の環境へ。」をテーマに、東日本大震災・原発事故からの復興のあゆみを続ける福島の今について情報発信をしました。

※COP27とは：気候変動に関する国際的な交渉を行う国連気候変動枠組条約第27回締約国会議。2022年11月にエジプトのシャルム・エル・シェイクで開催され、約200の国・地域が参加しました。



「今の福島について世界中の人はどう思っているのだろう？」「もっと正しく知って欲しい！」  
「環境再生や復興のあゆみと現在の様子、今後の展望について世界中の人に伝え、福島についてもっと知ってもらいたい」そんな思いで行ってきました！

### ○ どのような方々がブースに来たの？

世界各国の政府機関やメディア、NGO団体、学生などさまざまな方が興味を持ってブースに来られました。



アジア(韓国、中国、台湾、インド、パキスタン、マレーシア、フィリピン)、オセアニア(オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニア)、中東(イスラエル、UAE、イラク、サウジアラビア、オマーン)、アフリカ(スーダン、エジプト、南アフリカ)、欧州(フランス、ドイツ、オランダ)、北米(アメリカ、カナダ)からいらっしゃった方々とお話をしました。

### ○ どのような情報発信をしたの？

「福島は東京電力福島第一原子力発電所の事故により多くの方が避難を余儀なくされましたが、除染の実施などにより安全に暮らせる環境を取り戻してきており、帰還される方々も徐々に増えていること」「水素の活用や太陽光発電などの再生可能エネルギーを積極的に導入し、新たなまちづくりに取り組んでいること」「福島のことを学ぼうと若い方々を中心に多くの方が福島を訪れるようになってきていること」などをお伝えしました。

そして、「日本に来たら福島に来て欲しい、自分の目で見て、感じて味わって欲しい」と最後には必ずお伝えしました。



### ○ 来場者の反応は？

「FUKUSHIMAを知っていますか？」と聞くと、全員の方が、「知っている！」「もちろん！」と答えてくださいました。好意的なコメントが多く、とりわけ一部を除いてですが、住めるようになっていくことについて驚かれ、除染については、「そんなことをしたのか！」「Amazing！」「なんて勤勉なんだ！」と多くの方が感心されていました。

他にも次のような声がありました。

震災の際にボランティアで現地入りしていたけど、あの当時からよくこの短期間で復興を進めていると感心したし、うれしく思うよ。

あのときは非常に心を痛めていた。今このようになっていてとてもうれしく思う。

是非今度行ってみたい。

福島は気になっていたけど、このような復興を遂げているとは素晴らしい。



除染について説明した際には、「どのくらいの土が出たの？その土は今後どうするの？」と聞かれ、「福島だけに負担を押しつけるのではなく、県外で最終処分したり、再生利用することとしている」だとお伝えすると、「Wonderful！」「Excellent！」「Amazing！」などの感想をいただきました。

他にも、「もう安全なのか？」「再生利用に関心がある。覆土はどこから持ってくるのか？日本国内か？」「処理水はどうするのか？」「チェルノブイリとの差はどうして生まれたの？」「ここまでの復興の方法が知りたい」「地震が多い日本で原発はどのような対策を取っているの？」「廃炉の方法が知りたい」など技術的な質問もいただきました。

COP27 JAPAN PAVILIONのホームページでは、現地展示のほかに、オンライン上でもヴァーチャル展示を行っています。日本の脱炭素化に向けた技術や取り組みをオンラインで紹介しています。ぜひご覧ください。

[COP27 ジャパンパビリオン](#) 検索



ジャパンパビリオンの「FUKUSHIMA」の文字を見て立ち寄られた方が多く、海外での興味・関心の高さを実感しました。一方で、福島の今について情報が十分に届いていないことも実感したので、これからもしっかり情報発信を続けていきたいと考えています。最終日には展示していた双葉のだるまをブースにいらっしゃった方へプレゼントしました。みなさんととても喜んでくださいました。今頃、世界のあちこちで、双葉のだるまを見て福島のことを思い出してくださっているに違いありません。